



J F E ホールディングス株式会社

2022 年 3 月期 第 2 四半期 決算説明会（インベスターズ・ミーティング）

2021 年 11 月 5 日

登壇

司会：ご参加の皆様、これより JFE ホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。

本日の出席者でございます。代表取締役副社長、寺畑雅史、専務執行役員、田中利弘でございます。

時間は、プレゼンテーション 30 分程度、質疑応答 30 分程度の 60 分を予定しております。

それでは初めに、代表取締役副社長、寺畑よりご挨拶申し上げます。

寺畑：寺畑でございます。本日はご多用の中、インベスターズ・ミーティングにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

今回、2021 年度の業績見通しにつきましては、連結事業利益 3,600 億円と、前回 8 月の公表に対して 100 億円上方修正いたしました。

商社事業が、国内・北米での市況上昇等により増益の見込みであります。

鉄鋼事業は、販売価格の改善が国内中心に、前回公表を上回る見込みではありますが、一方で原料炭や金属、その他諸物価上昇が続いております。

セグメント利益の見通しは 2,800 億円で据え置いております。今年度の見通しを考える上で、こうした仕入れ価格の上昇が大きなポイントとなると捉えており、引き続き販売価格改善への取り組みを強力に推進してまいります。

それでは、詳細につきましては、専務執行役員の田中よりご説明申し上げます。

前年度下期以降の世界各国の経済持ち直しが継続していることを背景にした、堅調な鋼材需要と鋼材市況等により、鉄鋼事業を中心に収益は大幅に回復

(億円)	2020年度 上期	2021年度 上期	増減
売上収益	14,922	19,429	4,507
事業利益	▲1,143	1,988	3,131
金融損益	▲64	▲56	8
セグメント利益	▲1,207	1,932	3,139
個別開示項目	-	-	0
税引前利益	▲1,207	1,932	3,139
税金費用・非支配持分帰属当期利益	150	▲524	▲674
親会社の所有者に帰属する当期利益	▲1,057	1,407	2,464

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

4

田中：田中でございます。それでは、本日、弊社のホームページに掲載いたしましたインベスターズ・ミーティング資料に沿ってご説明をいたします。

まず、上期の決算でございます。4 ページ目をご覧ください。

前年度下期以降、世界各国の経済の持ち直しが継続しているということを背景にして、鋼材需要は堅調であり、市況も上昇したことにより、鉄鋼事業を中心に収益は大幅に回復をしています。

ご覧のとおり、売上収益につきましては、前年同期と比べますと、約 30%の増収です。

事業利益以降の利益項目につきましては、昨年が 1,000 億円単位の赤字ということでございましたので、それと比較いたしますと今回は大幅に改善をしております。



2021年度 上期決算概要 セグメント別

JFEホールディングス

JFE

(億円)	2020年度 上期	2021年度 上期	増減
売上収益			
鉄鋼事業	10,272	14,104	3,832
エンジニアリング事業	2,219	2,292	73
商社事業	4,517	5,444	927
調整額	▲2,086	▲2,411	▲325
合計	14,922	19,429	4,507
事業利益 (A)	▲1,143	1,988	3,131
金融損益 (B)	▲64	▲56	8
セグメント利益			
鉄鋼事業	▲1,362	1,585	2,947
エンジニアリング事業	87	111	24
商社事業	72	256	184
調整額	▲4	▲20	▲16
合計 (A+B)	▲1,207	1,932	3,139

5

先ほどの値をセグメント別に展開したものが次のページでございます。

売上収益に関しましては、鉄鋼事業、ならびに商社事業が鋼材の数量増や市況の上昇に伴って、増加しております。

下段のセグメント利益については、合計で21年度上期1,932億円となりました。鉄鋼事業に関しましては、昨年度上期と比較いたしますと、赤字から黒字に転じまして、+2,947億円の大幅な増益です。

エンジニアリング事業につきましても、111億円ということで、昨年から見ますと24億円増益となりました。

さらに、商社事業については、256億円という実績になりまして、昨年度上期と比較いたしますと約3.5倍という大幅な増益になっております。

鋼材需要の回復と市況の上昇が大きな要因ですが、特に商社の場合、海外におけるグループ会社での収益が大幅に改善したということが大きく寄与しています。



2021年度 業績見通し（対前回）

JFEホールディングス

JFE

- 鉄鋼事業については、鋼材価格改善の取り組みの成果により、主原料価格上昇の中でもスプレッドの改善を見込む一方、金属・スクラップ等の諸物価上昇に伴うコストアップがあり、前回公表通りのセグメント利益（2,800億円）を想定
- グループ全体の事業利益は、商社事業の増益を踏まえ、**前回公表比+100億円好転**の見通し

(億円)	2021年度見通し (前回)		2021年度見通し (今回)		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	19,700	41,700	19,429	43,400	▲271	1,700
事業利益	1,950	3,500	1,988	3,600	38	100
金融損益	▲50	▲100	▲56	▲100	▲6	0
セグメント利益	1,900	3,400	1,932	3,500	32	100
個別開示項目	—	—	—	—	0	0
税引前利益	1,900	3,400	1,932	3,500	32	100
税金費用・非支配持分帰属当期利益	▲600	▲1,000	▲524	▲1,000	76	0
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,300	2,400	1,407	2,500	107	100

7

次に、2021 年度年間の見通しについてです。

この表は、8 月に前回発表いたしました見通しとの対比表です。売上収益については、年間で 4 兆 3,400 億円ということで、1,700 億円さらに増収を見込んでございます。

事業利益につきましては 3,600 億円、セグメント利益 3,500 億円、当期利益 2,500 億円という見通しです。

前回見通しと比較したときに、まず上期実績については、ほぼ見通し通りに着地いたしました。

一方で、年間の業績見通しにつきましては、事業利益、セグメント利益、当期利益、いずれの項目につきましても、100 億円の上方修正でございます。



2021年度 業績見通し（対前回） セグメント別

JFE

(億円)	2021年度見通し(前回)		2021年度見通し(今回)		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益						
鉄鋼事業	14,500	31,300	14,104	31,900	▲396	600
エンジニアリング事業	2,400	5,200	2,292	5,200	▲108	0
商社事業	5,600	11,500	5,444	12,100	▲156	600
調整額	▲2,800	▲6,300	▲2,411	▲5,800	389	500
合計	19,700	41,700	19,429	43,400	▲271	1,700
事業利益 (A)	1,950	3,500	1,988	3,600	38	100
金融損益 (B)	▲50	▲100	▲56	▲100	▲6	0
セグメント利益						
鉄鋼事業	1,600	2,800	1,585	2,800	▲15	0
エンジニアリング事業	100	250	111	250	11	0
商社事業	230	380	256	450	26	70
調整額	▲30	▲30	▲20	0	10	30
合計 (A+B)	1,900	3,400	1,932	3,500	32	100

8

これをセグメント別に展開したものが次のページですが、数値につきましてはご覧のとおりでございますので、割愛をさせていただきます。



2021年度 業績見通し（対前年度）

JFEホールディングス

JFE

- ・ 上期は、鉄鋼事業の需要回復や市況上昇を主因に、**事業利益は1,988億円の黒字**
- ・ 国内外の経済の持ち直しを背景として、鋼材需要回復や鋼材市況の上昇等により、**通期の事業利益は3,600億円（前年度比+3,729億円）**の見通し

(億円)	2020年度実績		2021年度見通し		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	14,922	32,272	19,429	43,400	4,507	11,128
事業利益	▲1,143	▲129	1,988	3,600	3,131	3,729
金融損益	▲64	▲124	▲56	▲100	8	24
セグメント利益	▲1,207	▲254	1,932	3,500	3,139	3,754
個別開示項目	—	204	—	—	0	▲204
税引前利益	▲1,207	▲49	1,932	3,500	3,139	3,549
税金費用・非支配持分帰属当期利益	150	▲169	▲524	▲1,000	▲674	▲831
親会社の所有者に帰属する 当期利益	▲1,057	▲218	1,407	2,500	2,464	2,718

9

それから、この表は、業績見通しを前年度と比較したものでございます。

年間では、売上収益については約 35%増収の 4 兆 3,400 億円です。

昨年度は事業利益▲129 億円、セグメント利益▲254 億円、当期利益▲218 億円の赤字の決算でございました。

そこから見ますと、今年度見通しは大きく改善をしており、上期実績と同様の傾向です。

次のスライドは今の数値をセグメント別に展開したものでございます。こちらについてもご参照いただくということで、次にいかせていただきます。

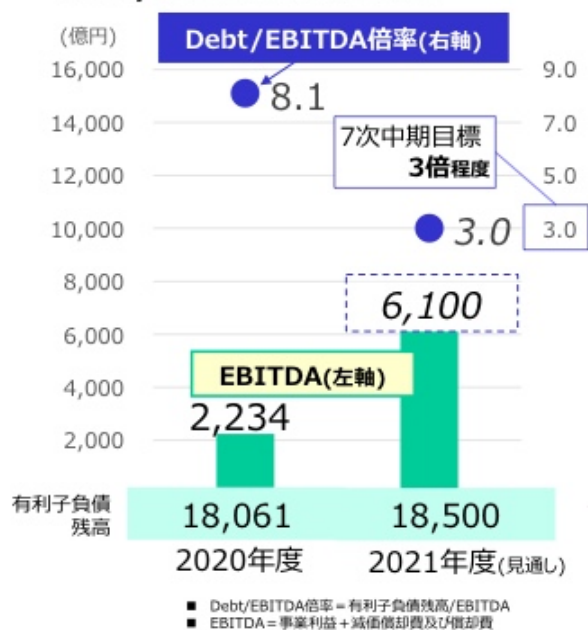
連結キャッシュフロー、Debt/EBITDA倍率見通し

2021年度末のDebt/EBITDA倍率は、7次中期目標レベルに到達（3.0倍）

連結キャッシュフロー見通し

(億円)	
Cash-in	Cash-out
当期利益 2,500	設備投資 および投融資 3,800
減価償却費 および償却費 2,500	配当金支払 400
資産圧縮 500	運転収支他 1,700
有利子負債 400	

Debt/EBITDA倍率の推移



11

次にキャッシュフローとDebt/EBITDA倍率見通しでございます。

右下に記載しておりますが、2021年度末の有利子負債残高は、1兆8,500億円の見通しです。前年度末の有利子負債残高は1兆8,061億円でしたので、400億円強、増加いたします。

左のキャッシュフローの見通しをご覧くださいと、当期利益と減価償却の財源で投資等を賄っております。それに加えて資産圧縮により500億円ほどのキャッシュフローの創出も行いますが、一方で原料価格の上昇等を背景に、運転収支のキャッシュアウトは大幅に増えており、若干の借入増という見込みです。

ただ、右のグラフを見ていただきますと、EBITDAが6,100億円の見通しで、Debt/EBITDA倍率にいたしますと、3倍です。

7次中期経営計画の目標が3倍程度ですので、今年度末において、この目標に到達するという数値でございます。

当期の中間配当については、
1株当たり60円とする方針を取締役会において
決議いたしました。

期末の配当については、
今後の業績動向を見極めつつ検討することとしており、
未定としております。

13

それから次に、配当についてです。

中間配当につきましては前回も公表しておりますとおり、1株当たり60円ということで取締役会において決議をしております。

期末の配当については、今後の業績動向を見極めつつ検討ということで、現時点では未定でございます。



2021年度 上期決算

JFE

	単位	2020年度					2021年度			上期 見通し (前回公表)
		4-6月	7-9月	上期	下期	年間	4-6月	7-9月	上期	
売上収益	億円	5,087	5,186	10,272	12,279	22,552	6,385	7,719	14,104	14,500
セグメント利益	億円	▲578	▲784	▲1,362	708	▲654	697	888	1,585	1,600
棚卸資産 評価差除き*	億円	▲348	▲334	▲682	368	▲314	257	428	685	750
単独 粗鋼生産量	万 t	479	538	1,017	1,259	2,276	625	645	1,270	1,300 _弱
連結 粗鋼生産量	万 t	509	568	1,077	1,319	2,396	659	680	1,339	1,360 _弱
単独 鋼材出荷量	万 t	459	475	934	1,115	2,049	526	556	1,083	1,140 _{程度}
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	44.2	40.2	42.2	42.4	42.3	43.2	49.3	46.5	47 _{程度}
鋼材平均価格	千円/ t	75.3	71.0	73.1	76.2	74.8	87.6	101.0	94.5	95 _{程度}
為替レート	円/¥	107.7	105.9	106.8	104.8	105.8	109.8	110.0	109.9	110 _{程度}
期末為替レート	円/¥	107.7	105.8	105.8	110.7	110.7	110.6	111.9	111.9	-

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリーオーバー、為替換算差を除いた損益

15

では具体的に各事業会社別の中身をご説明いたします。

まず、JFE スチールの上期決算です。

セグメント利益は上期 1,585 億円ということで、15 億円マイナスではありますが、ほぼ前回の見通し通りの数値でございます。

生産量について、単独粗鋼生産量で申し上げますと 1,270 万トンということで、前年が 1,017 万トンでしたので、前年の上期と比較しますと、250 万トン強の増産になりました。

ただ、前回 8 月の見通しから比較いたしますと、前回 1,300 万トン弱と申し上げておりましたので、30 万トン弱減産となっております。豪雨の影響、細かなトラブルの影響等によって、若干の減産となっております。

それから、下から 3 行目に鋼材平均価格がございます。この上期の実績で 9 万 4,500 円、昨年の上期が 7 万 3,100 円ですので、2 万 1,400 円上昇しました。特に 7～9 月については、10 万 1,000 円ということで、当社としても、久方ぶりに 10 万円台の平均価格となりました。



2021年度上期 見通し⇒実績

JFEスチール

セグメント利益 ▲15億円内訳

販売価格改善を着実に実行し、セグメント利益はほぼ前回見通しどおり

(億円)			
JFEスチール	2021年度上期 見通し	2021年度上期 実績	増減 見通し→実績
セグメント利益	1,600	1,585	▲15
1. コスト	±0		
2. 数量・構成	▲60	・ 粗鋼量 1,300万t弱⇒1,270万t ▲30万t弱	
3. 販価・原料	+30	(≒鋼材トン当たり：300円) ・ 主原料価格は高値圏継続も、国内外の需給・市況を背景に スプレッドは改善	
4. 棚卸資産評価差等	+50	・ 棚卸資産評価差+50 (+540→+590) ・ 原料キャリーオーバー影響±0 (+300→+300) ・ 為替換算差±0(+10→+10)	
5. その他	▲35	・ 金属・スクラップ等の諸物価上昇 他	

16

セグメント利益の増減の内訳ではありますが、まず上期の前回見通しから実績にかけて、15億円マイナスであったことの内訳です。

数量が30万トン弱減産になったという影響によって、▲60億円です。

一方で、販価・原料は、販売価格の上昇により、+30億円です。

さらには、棚卸資産評価差で+50億円の方で、その他の項目に記載しております金属・スクラップ等の諸物価の上昇影響もあり、合計すると対見通▲15億円という着地でございます。



2020年度上期

JFEスチール

⇒ 2021年度上期 セグメント利益 +2,947億円内訳

販売価格の改善や粗鋼生産量の増加に加え、国内外グループ会社収益の改善により、2,947億円の改善

(億円)			
JFEスチール	2020年度 上期実績	2021年度 上期実績	増減 2020上→2021上
セグメント利益	▲1,362	1,585	+2,947
1. コスト	+150	・ 設備投資効果発現 等	
2. 数量・構成	+450	・ 鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量1,017万t⇒1,270万t)	
3. 販価・原料	+340	(≒鋼材トン当たり：3,100円) ・ 主原料価格は上昇するも、 国内外の需給・市況を背景に、スプレッドは改善	
4. 棚卸資産評価差等	+1,580	・ 棚卸資産評価差+1,170 (▲580→+590) ・ 原料キャリーオーバー影響+360 (▲60→+300) ・ 為替換算差+50 (▲40→+10)	
5. その他	+427	・ 国内外グループ会社収益の改善 等	

17

次に、前年上期との比較ですが、+2,947 億円の大幅増益となりました。

内訳を申し上げますとコスト削減+150 億円、数量については 250 万トン強の増産により、+450 億円、スプレッドについては+340 億円です。

スプレッドの部分については、販売価格・原料単価とも、大きく上昇しております。販売価格は輸出市況の上昇の寄与が大きく、原料については、圧倒的に鉄鉱石価格の上昇が影響しております。

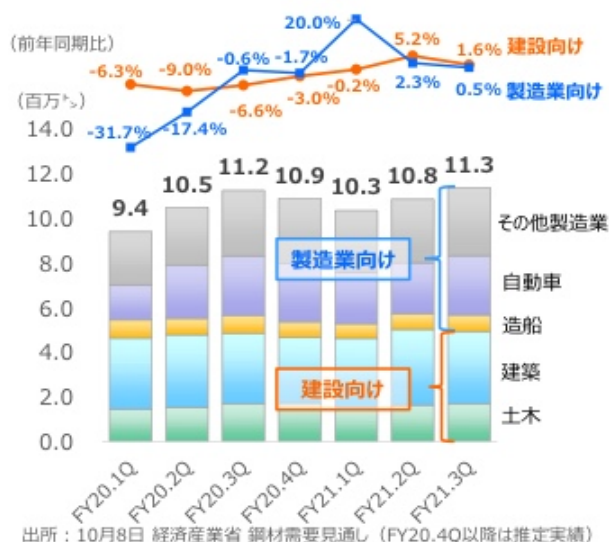
これに、棚卸資産評価差等の+1,580 億円、その他で+427 億円となります。

その他については、国内外のグループ会社の改善で+700 億円ほどありますが、金属・スクラップ等の諸物価の上昇による影響が▲400 億円ございます。これら 2 つがその他の主要因です。



- **製造業を中心に需要堅調、鋼材需要の回復基調が継続**
- 3Qの国内普通鋼鋼材消費見通しは**前年同期比+1.0%、前期比+4.6%**と増加する見通し
- 部品供給制約や半導体不足影響を受け、自動車生産は減少。年間自動車生産台数は**820万台程度**（対前回見通し▲100万台）を見込む
- 部品・半導体不足は**長期化リスクもあり、動向を注視**

【国内普通鋼 鋼材消費見通し】



分野	見通し概況
自動車	<ul style="list-style-type: none"> ・前回見通し年間生産台数を下方修正し、年間820万台程度を想定（上期→下期では増産の見通し）
造船	<ul style="list-style-type: none"> ・新造船受注は世界経済の回復に伴う荷動・用船市況の上昇を背景に増加基調 ・手持ち工事量も安定水準まで概ね回復
他製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ・住宅投資等の建機需要は堅調に推移 ・半導体、EV関連の設備投資活発化を受け産業機械も堅調
土木	<ul style="list-style-type: none"> ・公共分野は底堅く推移し、鋼材需要は概ね前年度並みを想定 ・下期は季節要因もあり、鋼材需要は上期比で増加を見込む
建築	<ul style="list-style-type: none"> ・再開発案件など、大型案件や物流倉庫は堅調に推移 ・中規模案件などの動きだしも見られる

18

次に、年度の見通しの前提となる足元の事業環境についてです。

国内については、製造業を中心に需要は堅調であり、鋼材需要の回復基調は継続するという大きな流れは変わっていないと考えております。

下段にグラフを掲載しておりますが、21年度第3四半期の国内の普通鋼材消費見通しは、前年同期や21年度第2四半期と比べても増加の見通しであります。ただ、自動車生産に関しては、部品供給制約、半導体不足の影響を受けて、年間で820万台と想定しております。

前回、920万台と見ていましたので、100万台の減ということになりますが、この減産は主に上期で既に発現しております。いずれにしましても、自動車生産の見通しは今後も注視していく必要がございます。

続いて、右下に、各分野別に見通しの概況を入れてございます。自動車については、減産は上期中心ということで、上期から下期にかけては増産の見通しと想定しております。各自動車メーカーの計画を見ても、12月以降挽回という見通しになっています。

造船については、世界経済の回復に伴う荷動や用船料の上昇を受けて、新造船受注が増加基調です。手持ちの工場量も安定水準までおおむね回復してきていると見ています。

その他の製造業についても、インフラ・住宅投資といった建機の需要は非常に堅調です。また、半導体、EV 関連の設備投資の活発化も受けて、産機についても堅調と見ております。

土木については、前回と見通しは変わっておりません。例年の季節差もあって、下期は上期よりも鋼材需要が増える見通しです。

建築について、再開発案件、大型物件、物流倉庫は前回見通しと同様、堅調に推移すると想定しています。また、若干弱かった中規模案件についても動き出してきています。



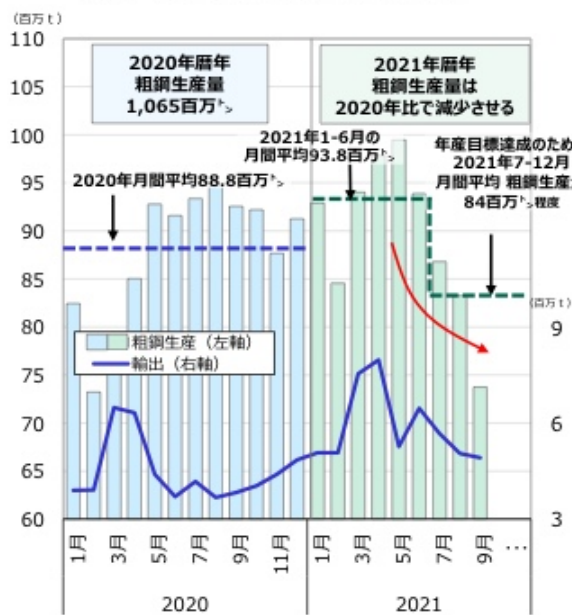
足元の事業環境認識（海外）

JFEスチール

JFE

- ▶ 世界経済の回復に伴い、**鋼材需要は総じて回復基調が継続する見込み**
- ▶ 中国の粗鋼生産抑制や輸出抑制の政府方針が継続する限り、**需給タイトな環境が継続する見通し**
- ▶ 東南アジアや新興国の**新型コロナウイルス感染再拡大の影響**や**半導体、部品供給制約の動向**には要注視

【中国粗鋼生産量・鋼材輸出量】



【各国情勢・動向の見通し】

要素	見通し概況
中国の粗鋼減産施策	<ul style="list-style-type: none"> 中国の粗鋼減産と輸出抑制施策により、中国からの鋼材輸出は減少傾向にある 粗鋼減産に加え、主原料コスト上昇により、中国国内市況は底堅く推移しているが、今後の動向は要注視
インドミルの動向	<ul style="list-style-type: none"> アジア圏への輸出は見られるが、コロナ禍のピークアウトや秋の需要期による内需回復を想定 原料炭価格の高騰を受け、輸出価格は一定レベルが維持されると想定
ロシアミルの動向	<ul style="list-style-type: none"> 欧州販売停滞（季節要因）と欧州・トルコの自動車減産等を背景に各地で安値での輸出の動きあり 自動車生産の回復により輸出先は欧州・トルコへ回帰し、他国ミルのオファー価格の回復に伴い、一定レベルの価格に収斂すると想定
中国の電力不足	<ul style="list-style-type: none"> 中国の一部高炉・電炉で操業制限。製造業への影響は要注視 合金鉄の製錬所の操業調整による供給不足により、金属市況が高騰
東南アジアのCOVID-19再拡大	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部品のサプライチェーン寸断による、自動車減産や、電機など各製造業の減産が発生 一時的な需給緩和により、東南アジア鋼材市況は足元軟化 今後、自動車生産の回復に伴い、市況回復を想定

続いて、海外の事業環境について、総じて鋼材需要は回復基調の継続だと想定しております。

中国に関しては、ご案内のとおり、粗鋼生産の抑制、輸出の抑制の方針が継続しております。このような状況である限り、需給タイトな状況が継続すると見ています。

左下のグラフは、棒グラフが月別の中国の粗鋼生産量です。2021年（暦年）の中国の粗鋼生産量は2020年（暦年）を上回らないという政府の表明です。2021年前半に相当数生産していること

を考えると、2021 年後半に大幅な減産をしないといけない計算になります。棒グラフ上の緑の点線で示しますように、後半 6 カ月の平均がこのラインを下回らないと前年対比減少となりませんが、9 月でかなり大きく減産した実績が出ました。よって、現時点では、前年を超えないという生産量の水準が見えてきていると想定されます。

右側に、その他の要素を含めて、各国の情勢を掲載しておりますが、中国については、今申し上げたとおりです。主原料コストが上昇していることも相まって、市況は底堅く推移すると想定しています。

インドについて、アジアへの輸出もありましたけれども、新型コロナウイルス感染拡大のピークアウトや、秋の需要期によって、内需回復を想定しています。

ロシアについても、EU の販売停滞や、自動車の減産を背景に、世界各地に安値の輸出が見られましたが、自動車生産の回復によって、輸出先が EU やトルコへ回帰して、輸出価格についても一定レベルで収斂すると想定しております。

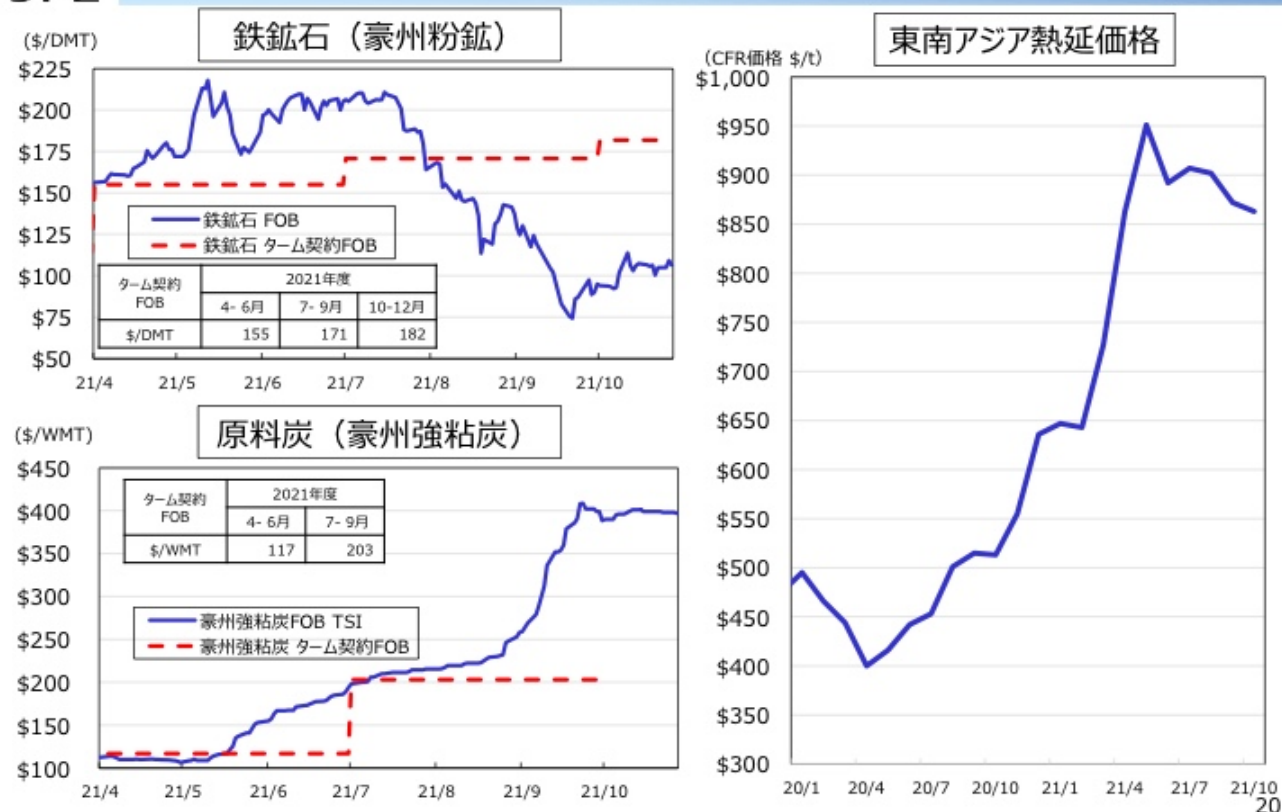
注視すべきは、中国の電力不足の影響です。製造業への影響もさることながら、合金鉄に影響が出て、合金鉄市況が非常に上昇しております。この点に関しても注視していかなければなりません。

東南アジアについても、コロナ再拡大の影響を注視する必要があります。市況は、足元軟化傾向はありましたが、今後、自動車生産の回復に伴って市況も回復していくことを想定しております。



業績見通しの前提（原料市況、鋼材市況）

JFE



業績見通しの前提となる原料等の数表をここに並べております。

鉄鉱石価格については、大きく上がったところから、足元 100 ドル前後を推移しております。原料炭価格については、9 月から急激に上昇し、今、400 ドル前後を推移しております。

**粗鋼生産量見通し**

- ・ 21年度の単独粗鋼生産量は、**2,650万トン程度**を見込む
- ・ 2021年12月中旬に倉敷第4高炉火入れ予定（12月下旬から12月中旬に前倒し）

メタルスプレッド

- ・ 国内輸出トータルのスプレッドは**前回見通し比+430億円の改善**を見込む
高値圏の主原料とタイトな鋼材需給環境が継続し、鋼材市況は高位継続すると想定
 - **鉄鉱石価格**
中国の粗鋼減産政策を背景に、一定の落ち着きを見せており、当面は**足元の水準で推移**すると想定
 - **原料炭価格**
足元市況は過熱しすぎていると見ているが、収束に一定程度時間を要すると見ており、**当面は高値圏継続**と想定

金属・スクラップ価格

- ・ 需給のタイト化に加え、各国の電力不足を背景に、ほぼすべての金属で**高値継続**

21

そうした中で、業績見通しの前提です。

粗鋼につきましては、年間で2,650万トンという前回の見通しと変更ございません。

上期で30万トン弱減産となりましたので、下期で30万トンぐらい増産をすることになります。2行目にございますように、倉敷の第4高炉の火入れを12月下旬から中旬に前倒しして、増産対応をとっていきたいと考えております。

スプレッドについては、トータルで+430億円の改善を前回対比で見込んでおります。鋼材市況が高位継続することを想定していますが、原料の価格の前提については、鉄鉱石は今のところ足元は一定の落ち着きを見せていると考えており、当面は足元水準で推移すると想定しております。

原料炭については、なかなか難しいところではありますが、足元の市況は非常に過熱しすぎていると考えておりますが、収束するには一定時間を要すると見ており、当面は高値圏継続と置かざるを得ないと思っております。

金属・スクラップ価格についても、高値は継続すると考えています。

販売価格改善の具体的取り組みと進捗

- 主原料コスト上昇・需給タイトを背景として、輸出鋼材市況は高止まり
- 以下の取り組みを通じて、国内の販売価格改善も着実に進んでいる

具体的取り組み

◆ 原料コスト早期反映

原料コストの上昇分の確実かつ早期の価格反映に取り組む

- 原料コストに連動して販売価格を決める取引：原料コスト参照期間の短縮化
- 個別交渉により販売価格を決める取引：原料コスト確定後1カ月程度での反映
- 金属・スクラップなどのコスト上昇分に関しても鋼材価格への反映に向けて交渉を継続

◆ 海外市況の捕捉

市況との連動性が高い品種・分野に関しては、原料コスト上昇分を上回る価格改善について認めていただいている

◆ エキストラ見直し

一例では、特殊なサイズ・形状に対して追加でかかるコストをエキストラ化するなど、既に一部では改定を実現。実態にそぐわなくなっている部分もあるため、見直しを加速

◆ 持続可能な価格水準への是正

継続的な取引の中でも、安定的な収益水準を確保できていない一部については、持続可能な価格水準への是正を推進

22

また、前回もご説明しました販売価格改善への取り組みについてご説明します。

まず、輸出の市況については、主原料コストが上がっている、需給タイトということもあって高止まりが続いております。

国内についても、様々な取り組みを通じて、販売価格改善を着実に推進しております。

下記の取り組みについては、前回もご説明した内容でありますので、細かくは触れませんが、まず原料コストの早期反映について、参照期間の短縮等、取り組んでおります。

さらには、金属・スクラップ等のコスト上昇分の価格反映も、引き続き交渉を継続しております。

さらに、海外市況は高値圏が続いておりますので、原料コスト分を上回る価格改善についてかなり進んでいると考えております。

エキストラ見直しについても、記載しております一例のように、特殊なサイズ・形状に対して追加でかかるコストをエキストラ化するなど、既に一部では実現例が出てきております。これら見直しも引き続き推進してまいります。

	単位	2020年度 年間	2021年度			2021年度 年間 前回見通し
			上期 実績	下期 見通し	年間 見通し	
売上収益	億円	22,552	14,104	17,796	31,900	31,300
セグメント利益	億円	▲654	1,585	1,215	2,800	2,800
棚卸資産評価差等除き*	億円	▲314	685	505	1,190	1,230
単独粗鋼生産量	万t	2,276	1,270	1,380 程度	2,650 程度	2,650 程度
連結粗鋼生産量	万t	2,396	1,339			
単独鋼材出荷量	万t	2,049	1,083			
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	42.3	46.5			
鋼材平均価格	千円/t	74.8	94.5			
為替レート	円/¥	105.8	109.9	110 程度	110 程度	110 程度

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

23

21年度のスチールの業績見通しであります。

セグメント利益は前回見通し通り、2,800億円を見込んでいます。

粗鋼生産量は前述のように、年間2,650万トン程度を見込んでおります。



2021年度 セグメント利益 対前回見通し ±0 億円内訳

JFE

販売価格改善を着実に実行し、セグメント利益は前回見通しどおり

(億円)			
JFEスチール	2021年度 前回見通し	2021年度 今回見通し	増減 対前回
セグメント利益	2,800	2,800	±0

1. コスト	±0	
2. 数量・構成	±0	・ 粗鋼量 2,650万t程度
3. 販価・原料	+430	(≒鋼材トンあたり：+1,900円) ・ 販売価格改善を着実に推進
4. 棚卸資産評価差等	+40	・ 棚卸資産評価差+240 (+1,140→+1,380) ・ 原料キャリーオーバー影響▲200 (+420→+220) ・ 為替換算差±0 (+10→+10)
5. その他	▲470	・ 金属・スクラップ等の物価上昇 等

24

損益の増減内訳です。前回見通しと比較して、増減のトータルが±0 億円です。

内訳は、スプレッドで+430 億円を見込んでいます。原料価格の上昇はあるものの、特に今回、国内を中心に販売改善が進んで、スプレッドは改善すると見込んでおります。

一方で、その他の項目で▲470 億円ございますが、うち金属・スクラップ等の物価上昇影響が▲300 億円弱を占めております。このマイナスにより、合計すると対前回見通しで変動なしの見通しです。



2021年度 セグメント利益 対前年度 +3,454億円内訳

JFE

- ・ 新型コロナウイルス影響を大きく受けた2020年度からは需給環境が大幅に回復
- ・ 輸出を中心とした市況好転・数量増、国内外のグループ会社収益の改善により、対前年度で大幅な改善を見込む

			(億円)
JFEスチール	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減 対前年度
セグメント利益	▲654	2,800	+3,454
1. コスト	+300	・ 新規設備投資効果等	
2. 数量・構成	+700	・ 鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量 2,276⇒2,650万t程度)	
3. 販価・原料	+860	(≒鋼材トンあたり：+3,700円) ・ 主原料市況は大幅に上昇する見通しだが、需給・市況環境を背景に、販売価格上昇によりスプレッド改善	
4. 棚卸資産評価差等	+1,950	・ 棚卸資産評価差+1,750 (▲370→+1,380) ・ 原料キャリーオーバー影響+190 (+30→+220) ・ 為替換算差+10(±0→+10)	
5. その他	▲356	・ 国内外グループ会社収益の改善 ・ 金属・スクラップ等の物価上昇 等	

25

続いて前年との比較であります。

コスト削減+300億円、数量+700億円の2項目は前回公表の内容と同じですが、販価・原料では+860億円と、前回公表と比べると上乗せを図っています。

棚卸資産評価差が非常に大きく、+1,950億円を見込んでいます。その他については、国内外グループ会社の収益改善が+900億円程度あります。一方で、金属・スクラップ等諸物価の上昇が▲1,200億円弱あり、合計するとその他の項目では▲356億円となっております。



2021年度上期⇒下期 セグメント利益 ▲370億円内訳

JFE

- ・ 下期にかけて粗鋼生産量は増加し、コスト改善が進捗
- ・ 主原料物価に加え、その他原料の物価も上昇
- ・ 販売価格は改善するものの、下期損益は上期からの悪化を見込む

(億円)

JFEスチール	2021年度 見通し			増減 2021上→下
	上期 実績	下期 見通し	年間	
セグメント利益	1,585	1,215	2,800	▲370
1. コスト	+150	・ 新規設備投資効果 ・ ソフト改善 等		
2. 数量・構成	+260	・ 国内外の経済復調を背景に、緩やかな需要回復を見込む ・ 倉敷第4高炉の改修工事完了に伴う生産量増 (粗鋼量 1,270万t⇒1,380万t)		
3. 販価・原料	+360	(≒鋼材トンあたり：+2,900円) ・ 更なる販売価格改善を織り込み		
4. 棚卸資産評価差等	▲190	・ 棚卸資産評価差+200 (+590→+790) ・ 原料キャリアオーバー影響▲380 (+300→▲80) ・ 為替換算差▲10(+10→±0)		
5. その他	▲950	・ 海外グループ会社上期好調 ・ 減価償却費・経費 ・ 金属・スクラップ等の物価上昇 等		

26

最後に、21年度上期と下期の比較です。上期から下期へは▲370億円の損益悪化の見通しです。

内訳についてはコスト削減が+150億円、数量については粗鋼が増産になり、+260億円です。

さらに、スプレッドは+360億円です。まず、主に国内販売価格の改善が進む見込みです。原料価格は上昇しますが、鉄鉱石価格は下落、原料炭価格が大幅な上昇です。これらを合計して、+360億円を見込んでおります。

棚卸資産評価差は▲190億円。最後に、その他のマイナスが非常に大きいです。内訳については、海外グループ会社の収益が上期非常に良い結果になり、下期は、上期に比べ少し収益の減少を見込んでいるということもあり、▲150億円ほどの影響があります。

加えて、金属・スクラップ等の物価上昇が▲400億円弱、さらに償却・経費等々加わり、大きなその他のマイナスの内訳となっています。

以上、鉄鋼でございまして、次にエンジニアリングです。



2021年度 業績見通し

JFEエンジニアリング

JFE

足元の事業環境/損益概況

- 国内の事業環境は環境・エネルギー関連分野およびインフラ分野ともに堅調に推移
- 海外については、欧州の環境関連分野が引き続き堅調に推移
- 企業買収による増収等により、セグメント利益は前年度を上回る見通しで引き続き安定的な収益を確保

業績見通し

(億円)	20年度実績		21年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		21年度見通し (前回)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間	上期	年間
受注高	2,989	5,011	2,523	5,500	▲466	489	3,000	5,500
売上収益	2,219	4,857	2,292	5,200	73	343	2,400	5,200
セグメント利益	87	240	111	250	24	10	100	250

対前年度

＜年間＞	・受注高	+489	企業買収、カーボンニュートラル分野の大型案件の受注増
	・売上収益	+343	前年度受注高拡大、企業買収による増加
	・セグメント利益	+10	売上収益増により増加

対前回見通し

＜上期＞	・受注高	▲477	契約時期ずれにより減少
	・売上収益	▲108	工事進捗ずれにより減少
	・セグメント利益	+11	コスト発生時期差により増加

28

JFE エンジニアリングについて、状況としては前回公表までのご説明と大きく変更ありません。

環境・エネルギー分野、インフラ分野とも堅調です。

結果として、年間の見通しは前回見通しと全く変更なく、受注高 5,500 億円、売上収益 5,200 億円、セグメント利益 250 億円の見通しです。

上期については、受注高が前回見通しよりも少し減少していますが、これについては、契約時期のずれの影響で、上期と下期で入り繰り、年間では影響ないと見ております。



2021年度 業績見通し

JFE商事

JFE

足元の事業環境/損益概況

- 上期は、コロナ影響により大幅に落ち込んでいた**需要の回復**に加え、**鋼材市況の高騰**により**国内外グループ会社の収益が拡大**し、前年同期比で大幅な増益
- 下期は、上期に比べ減速はするものの、引き続き**北米を中心とした海外Gr会社**での**増益基調**が継続する見込みであることから、
通期では**セグメント利益450億円（対前回見通し+70億円、対前年度+250億円）**の見通し

業績見通し

(億円)	20年度実績		21年度見通し (今回)		増減 (対前年度)		21年度見通し (前回)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	4,517	9,325	5,444	12,100	927	2,775	5,600	11,500
セグメント利益	72	200	256	450	184	250	230	380

対前年度

- ・鋼材市況の高騰および、コロナ影響により落ち込んでいた需要の回復により増益の見通し。

対前回見通し

- ・上期は、北米を中心に鋼材市況が高位で継続し増益。
下期は、高収益の持続が見込めることから増益の見通し。

30

つぎに、JFE 商事についてです。

商事につきましては、冒頭に申し上げましたように、今回の業績見通しの中で、唯一上方修正し、年間セグメント利益は 450 億円を見込んでいます。

上期も、数量の回復や、市況のアップにより、収益が非常に拡大しました。

下期については、上期に比べ、今回も少し減速すると見ております。

前回見通しとの対比に関しては、下期は、北米を中心としたグループ会社についてももう少し減速を見込んでいましたが、増益基調が継続するという見通しで、上方修正しました。

以上が業績の話で、以降、トピックスに関して、いくつかお話をさせていただきます。



環境に関する取り組み①

JFEホールディングス

JFE

JFEスチール： カーボンニュートラル推進体制を再編

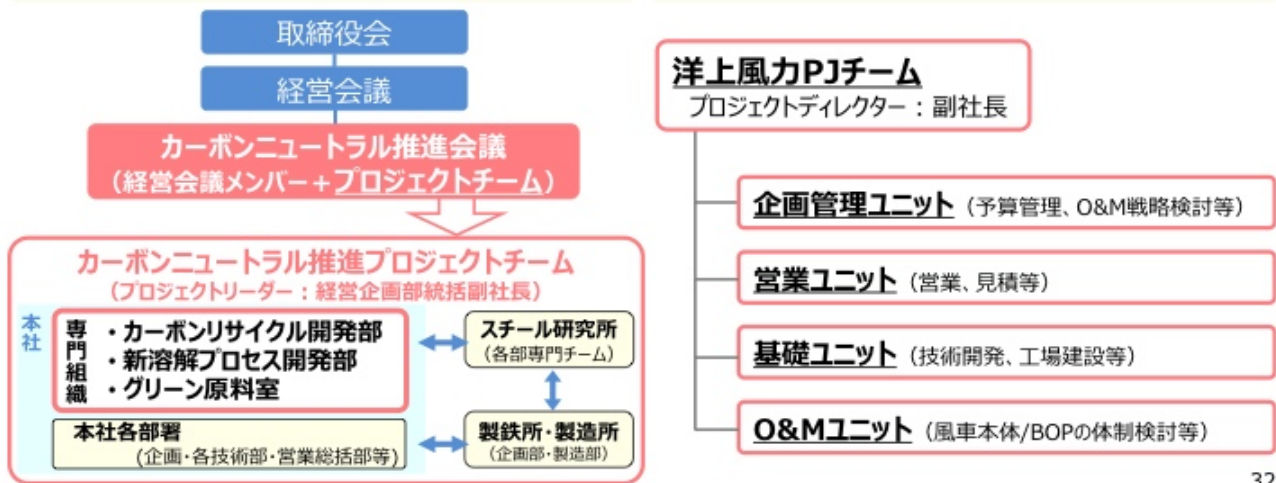
2021年9月22日 リリース

- ・重要課題の一元審議・決定を目的に、経営会議メンバーとプロジェクトチームで構成される「カーボンニュートラル推進会議」を設置（21年10月）
- ・カーボンニュートラル推進専門組織を3部門新設（21年7月・10月）

JFEエンジニアリング： 洋上風力事業に関する新組織発足

2021年8月31日 リリース

- ・洋上風力の基礎製造からO&Mに至るまで、一貫して取り組むことのできる組織を発足
- ・今後もカーボンニュートラル実現に向けて、JFEグループのシナジーを活かし、洋上風力分野での事業拡大を目指す



32

1 点目は、環境に関する取り組みということで、このページは、組織再編に関して整理しています。

左側が JFE スチールのカーボンニュートラル推進体制再編ということで、経営会議メンバーとプロジェクトチームで構成されるカーボンニュートラル推進会議を設定しました。

下段に記載しておりますが、このプロジェクトチームというのは、各部門で協力できる体制にしていますが、特に 7 月・10 月に、本社に 3 つの専門組織を新しく発足させました。このプロジェクトチームと経営会議メンバーで、推進会議で重要課題について議論していくという組織体制です。

つぎに、JFE エンジニアリングの洋上風力事業に関する組織再編についてです。洋上風力の基礎製造から、O&M に至るまで、一貫の取り組みをこの組織で実施します。プロジェクトチームの傘下には、ご覧のとおり 4 つのユニットを設定して取り組んでまいります。



環境に関する取り組み②

JFEホールディングス

JFE

JFEスチール： 「BETTER RECYCLE 湘南」プロジェクト*

2021年9月16日 リリース



- ・プラスチック容器の使い捨て問題に取り組み、**缶用鋼板による飲料容器である「ベターリサイクルカップ」の試作品を製作**
- ・テイクアウト時の使い捨てプラスチック飲料容器に代わる**環境にやさしいライフスタイル**を提案、循環型社会の実現に貢献
- ・湘南エリアでテストマーケティングを実施、3～5年後の新商品開発を目指す

*湘南地域に精通したメディア「湘南スタイルmagazine」および技術コンサルティング会社「株式会社IBLC」と当社の3社によるプロジェクト

JFEエンジニアリング： 木質バイオマス発電所の事業化決定

2021年10月27日 リリース

- ・愛知県田原市において、**木質バイオマス専焼発電所**を建設・運営
- ・**国内最大級112,000kW**の発電出力
- ・プロジェクトにJFE商事他、JFEグループ各社も参画、**グループ総合力を生かした事業運営**
- ・CO₂排出削減貢献量：34万t-CO₂/年

名称	： 田原バイオマスパワー合同会社
出資者	： JFEエンジニアリング 40%
	中部電力 40%
	東邦ガス 10%
	東京センチュリー 10%
燃料種別	： 木質ペレット
発電出力	： 112,000kW（国内最大級）
計画発電量	： 約7.7億kWh （一般家庭約25万世帯分相当）
工事開始	： 2022年6月（予定）
運転開始	： 2025年9月（予定）

33

次に、個別の取り組みとして、JFE スチールと JFE エンジニアリングで1件ずつご紹介します。

まず JFE スチールの取り組みについては、BETTER RECYCLE 湘南プロジェクトという、今までにないユニークな取り組みをご紹介します。

ベターリサイクルカップという缶用鋼板で出来た飲料容器で、プラスチック容器の使い捨て問題を解決すべく、その試作品を製作しました。今、湘南エリアでのテストマーケティングを実施して、3年から5年後、新商品開発に繋げていきたいという、環境問題に対応した取り組みです。

また、直近リリースした、JFE エンジニアリングの木質バイオマス発電所の事業化決定に関してです。愛知県の田原市に木質バイオマスの専焼の発電所を建設・運営します。国内最大級の11万2,000キロワットの発電の出力であり、エンジだけではなく、グループとしてJFE 商事を含めたグループ各社も参画して、グループ総合力を生かした事業運営を目指しております。

ちなみにこのプロジェクトでは、CO₂の排出削減貢献量が、年間当たり34万トンを見込めます。



DXに関する取り組み

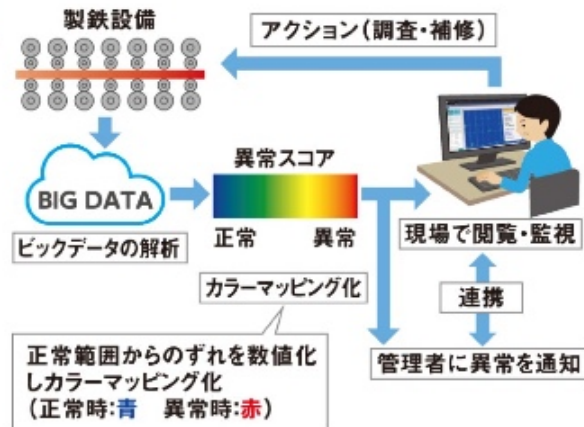
JFEホールディングス

JFE

JFEスチール：設備異常予兆検知システム「J-dscom®」を全地区熱延工場に展開

2021年9月29日 リリース

- 操業状態を示す膨大なデータを解析、設備異常予兆を検知、トラブルを抑止
- 過去経験のない想定外のトラブルにも対応可
- 西日本製鉄所(倉敷・福山地区)および東日本製鉄所(千葉・京浜地区)の全地区熱延工場に共通システムを導入
- 今後他製造プロセスへの展開を推進



JFEグループDX戦略説明会を開催

2021年8月26日 開催

当社HPの株主・投資家情報をご覧ください。
説明会資料・音声動画・質疑要旨を掲載しております。



<https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/management/plan/index.html>



34

次に、DX の取り組みです。

今回挙げておりますのは、スチールでの設備異常予兆検知システム、J-dscom®と呼んでいるもので、全地区の熱延工場に展開しています。

データ解析を通じて、異常の予兆を検知してトラブルを抑止します。また、過去に経験のない想定外のトラブルにも解析したデータの活用によって対応できるということで、各地区の熱延工場に共通システムとして導入しております。さらに、ほかの製造プロセスへの展開も考えています。

最後に、既に8月に行ったDX説明会についてですが、当社HPに説明会資料・音声動画・質疑要旨を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



傘下グループ会社の再編について

JFEホールディングス

JFE

JFEスチール：JFEミネラル(株)、水島合金鉄(株)、JFEマテリアル(株)の3社統合

2021年11月1日 リリース

- 鉄鋼事業のうち鉱産品・合金鉄、製鉄関連事業、及び機能材料事業を担うグループ会社である、JFEミネラル(株)、水島合金鉄(株)、JFEマテリアル(株)の3社について、**2022年4月1日を目途に統合**を決定
- **国内鉄鋼事業の縮小、気候変動への対応**、自動車の電動化や社会のIoT化の進展による**機能材料分野の事業機会の拡大**など、事業環境の大きな変化に対応すべく、統合によって会社規模を拡大、強靱な経営基盤を確立して長期の持続的成長、JFEグループの競争力強化を目指す

JFEスチール：エヌケーケーシームレス鋼管(株)の解散

2021年11月4日 リリース

- Tenaris S.A.社(以下テナリス)の100%子会社であるSiderca社と当社の合併事業として、シームレス鋼管の製造と販売を行っていたエヌケーケーシームレス鋼管(株)(以下NKKT)について、**2022年6月末を目途に生産停止、同年12月末をもって解散**することを決定
- 油井管ビジネスにとって厳しい事業環境が継続している中、当該事業を取り巻く環境や見通しを3社で精査した結果、事業継続は困難と判断
- NKKTがテナリスへ行っていた13Crシームレス鋼管の供給については、操業停止以降JFEスチールが供給を継続、両者の関係を維持することで大筋合意

35

こちらは直近発表した内容ですが、傘下のグループ会社の再編について、一点目は JFE スチール傘下の JFE ミネラル、水島合金鉄、JFE マテリアルの 3 社の統合についてです。

この各社は、鉱産品・合金鉄・製鉄関連事業、また機能材料事業を担うグループ会社であり、来年の 4 月 1 日を目処に統合を決定いたしました。

国内鉄鋼事業の縮小、気候変動への対応、自動車の電動化等を含め、機能材料の分野のこれからの拡大等といった事業環境を考えたときに、統合によって会社規模を拡大して経営基盤を強靱化していくことが必要であろうということで統合を決定しました。

二点目は、昨日（11 月 4 日）発表したものですが、エヌケーケーシームレス鋼管の解散についてです。テナリスの 100%子会社である Siderca と JFE スチールの合併事業としてエヌケーケーシームレス鋼管がありますが、来年の 6 月を目処に生産停止し、12 月で解散を決定いたしました。

油井管のビジネスにとっては非常に厳しい事業環境が継続している中、シームレス鋼管および両株主の 3 社で様々な点を精査した結果、事業継続は困難であろうと判断しました。

ちなみに、今までエヌケーケーシームレス鋼管がテナリスに行っておりまして 13Cr シームレス鋼管の供給につきましては、操業停止以降、JFE スチールが供給を継続し、両者の関係は維持するというので大筋の合意をしています。



その他トピックス

JFEホールディングス

2021年度統合報告書（10月19日）・CSR報告書（10月25日）を発行しました



1. 創立以来最大の変革に挑戦 ～第7次中期経営計画～

- ・ 第7次中期経営計画の策定
- ・ 「JFEグループ環境経営ビジョン2050」の策定
- ・ 事業会社における各社の事業戦略

2. 環境・社会的持続性と経済的持続性の確立に向けて

- ・ 経済面の重要課題を加えた、新たな経営上の重要課題（マテリアリティ）策定
- ・ 人権デューデリジェンスの取り組み など



<https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html>



1. 第7次中期経営計画

2. 経営上の重要課題（マテリアリティ）

- ・ 従来のCSR重要課題に経済面の関連課題を加えて再編

3. ESG課題への取り組み・ESGデータ集

- ・ 環境：気候変動問題、環境配慮型プロセスと商品、資源循環 など
- ・ 社会：労働安全衛生、ダイバーシティ&インクルージョン、人権尊重 など
- ・ ガバナンス：コーポレートガバナンス、リスクマネジメント など



<https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/index.html>

新市場区分における「プライム市場」選択を決議しました

取締役会にて、東京証券取引所の新市場区分への移行について「プライム市場」を選択、東京証券取引所に対して申請することを決議しました。

2021年11月5日 リリース

36

最後は、トピックスということで、統合報告書・CSR 報告書を発行いたしました。

また、新市場区分におけるプライム市場選択を決議しました。本日の取締役会で、東京証券取引所の新市場区分の移行に関して、プライム市場を選択致しました。

私からは以上です。

質疑応答

司会：質疑応答を開始いたします。

質問者：少し競合他社の決算との差が出ているように思います。おそらく先方は鋼材の値上げを積極的に進めている点と、海外事業について、鋼材市況の上昇により、インドやアメリカのグループ会社の損益寄与度が大きい点があると推測しています。この点に関して、JFE ではどのように受け止めているのか教えてください。また、今後、鋼材価格改善のポリシーについては、今まで通りか、それともより値上げを積極化していくのか教えてください。

2 点目は、輸出の鋼材価格をどう見ているのか教えてください。オールジャパンで見た熱延コイル平均単価が、9 月は 900 ドル台半ばぐらいであり、足元もおそらくその程度の水準かと思料しています。

一方で、先ほどは堅調と言及していましたが、中国の鋼材市況は下落してきており、国内市況については増値税前で、700 ドル台半ばぐらい、増値税後でも 800 ドル台前半といった水準になっています。

中国の市況が国際市況から少し切り離されているのかもしれませんが、鋼材市況は下がってきている中で、業績にはどのように織り込んでいるのでしょうか。

JFE：競合他社との比較につきましては、他社のことなので、詳細に関してコメントする立場にありませんが、ご指摘のとおり、海外事業の差は少しあると推測しています。

また、鋼材の価格につきましては、今後、競合他社の決算をきちんと分析していきたいと思いますが、一つは、副原料、合金鉄、スクラップ等が大幅に値上がりしているため、主原料価格の連動部分だけではなく、諸物価の上昇部分についても、随時交渉して見直していくことになっております。ここに、下期以降少し力を入れて、販売価格のアップに取り組んでいきたいと思っております。

2 点目の輸出の鋼材市況に関して、確かに東南アジアの鋼材市況については、11 月、12 月は若干弱含みになっています。インド、ロシアミルからの輸出鋼材の東南アジアマーケットへの流入が増加していることが一因にあります。

インドでは今年、雨期が若干長引きましたが、今後は需要期に戻っていくと予想しています。

またロシア材については、EU における自動車等の減産が効いて、世界各地で安売りに出てきていますが、こちらについても EU、トルコの鋼材需要が回復すれば、ロシア材はそちらに回帰していくだろうと想定しています。

したがって、第 4 四半期以降、輸出の鋼材市況はある程度持ち直してくるだろうと想定しています。ご指摘のあった中国については、足元の経済動向の減速を指摘されることもありますが、逆に年内では、粗鋼減産の強化という政府の方針等もあります。

以上のような点から、東南アジアの鋼材市況は、今後回復していくと見ています。

質問者：ちなみに CSR の報告書は大変立派で充実していたと思います。どうもありがとうございます。

司会：ありがとうございました。

質問者：1 点目は、2021 年度上期から下期のスプレッドに関して、スプレッドは改善するとのことですが、諸物価の上昇を含めると少し悪化するように見受けられます。これは、具体的に、輸出、国内等、どのような分野に影響があるのでしょうか。良い需給環境であれば、価格転嫁も可能のようにも思いますが、考え方を教えてください。

2 点目は、競合他社が、取引の形態について、生産・出荷後に値段を決めるのではなく、生産・出荷の前段階で値段を決めてから受注するという形式に変えたと説明していました。そういった取り組みについて、JFE はどう考えているのか教えてください。

JFE：2021 年度上期から下期へのスプレッドの変化については、国内を中心に販価の改善をしています。一方で、鉄鉱石の指標は下期にかけて若干下がる見込みですが、原料炭の指標が足元では、上期指標の 2 倍程度まで上がってきており、このマイナスもあり、スプレッドの変化は、2021 年度上期から下期ではトータルで 360 億円の改善と見ております。

もう一つは、副原料、合金鉄に関して、中国の電力単価上昇等もあり、合金鉄関係の物価が非常に上がっております。

これらに対する取り組みとしては、主原料については、販売価格への早期反映を実施してきています。副原料等々の値上げについて販売価格に反映するべく、随時交渉を進めていきたいと思っています。

2 点目の競合他社が進める、需要家との販売価格決定タイミングの件についてです。われわれは、この間販売価格改善の取り組みを進めていく中で、主原料価格の早期反映を申し上げてきています。

この取り組みを進めていくことが、結果的に、今おっしゃったようなことにも繋がっていくと理解しております。原料価格の早期反映を進めていくと同時に、諸物価上昇を反映した値上げをなるべく早く反映していくよう進めているところです。

販売価格の改善について、より強力に取り組んでいくことで、結果的には同じような動きをしていると思っています。

質問者：わかりました。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

質問者：1点目が、説明資料の17ページ目の2021年度上期の実績に関して、スプレッドの改善で、+340億円とあります。国内外、店売り・紐付き等の動き方について定性的でも結構ですので教えてください。

2点目が、今年度の上期の紐付き価格の値上げの交渉については、JFEとしてはどのような手応えを感じているのか教えてください。以上、2点です。

JFE：1点目の、国内の分野別の動きに関して、2020年度上期と2021年度上期の比較では、交渉で値段が決まっているいわゆる市況連動分野については、海外のマーケットも非常に良かったということもあり、スプレッドの改善は大きく進捗しました。

一方で、特に原料連動分野については、価格反映の早期化とともに、プラスアルファの価格改善を行ってきてはいます。ただ、価格反映のタイミングや面積という観点においては、まだ上期だけで十分に反映しきれていないというところもあり、下期にかけて、その部分も鋼材価格に反映していく方針です。

販売価格改善への取り組みにつきましては、紐付き・店売りの分野を問わず、お客様のご理解は広がっていると認識しております。そういう意味では、着実に価格改善は進めております。

ただ、先ほど来申しておりますように、原料炭コストの足元の高騰や、合金鉄をはじめとした、諸物価の高騰もあるので、さらに取り組みを強化していきたいと考えております。以上です。

司会：ありがとうございました。

質問者：質問を私も2点お願いします。まず1点目が、26ページの2021年度上期から下期にかけての金属・スクラップ等の約400億円弱のコストアップについて、影響が大きい項目を教えてください。また、これらの金属・スクラップ等の価格転嫁について、今後例えばサーチャージ制のようなフォーミュラを入れる取り組みをしていくことは考えられるでしょうか。

2 点目は下期の鉄鋼事業の生産量について、第 3 四半期と第 4 四半期でどんなような段差があるのか教えてください。以上 2 点よろしくお願いいたします。

JFE：1 点目のご質問ですが、約 400 億円弱の悪化のうちの約 6 割は金属の価格上昇の影響で、足元はあらゆる金属類の市況が上昇している状況です。その他は運賃、スクラップ、資材、電力等の価格が上昇する影響を含めています。

金属価格のサーチャージによる価格転嫁は、合金鉄の種類によって、できるものとできないものがあると考えており、整理して検討していきたいと思います。

2 点目の第 3 四半期、第 4 四半期の生産量については、先ほども申し上げましたように、倉敷第 4 高炉の立ち上げを早めて 12 月中旬を予定しています。これが第 4 四半期に寄与し、第 3 四半期に対して数十万トン規模生産量が増加すると考えています。

質問者：わかりました。どうもありがとうございます。

司会：ありがとうございました。

質問者：倉敷の高炉の火入れと自動車需要の回復等の事業環境を受けて、2021 年度上期から下期にかけて、品種構成はどのように変化するでしょうか。

JFE：先ほどお話しした通り、2021 年度の国内自動車生産台数の前提は 820 万台と従来の想定より 100 万台減少すると見ており、減産の影響は大半が上期に発現しています。ただし足元は造船、建機など厚板の需要がひっ迫してきており、自動車鋼材の減産を厚板等の増産で補ってきています。

一方で、今日も報道が出ていましたが、2021 年度下期にまた自動車生産台数が増えていく見込みであり、そうした需要を捕捉する形で生産計画を立てていきます。基本的にはお客様の需要に応じて対応していく方針です。

司会：それでは、以上で質疑応答を終了させていただきます。

これをもちまして、本日のインベスターズ・ミーティングを終了させていただきます。

本日はご参加いただきまして誠にありがとうございました。

JFE：ありがとうございました。

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。